

IV-295

公共空間における色彩による景観効果

ジオスケープ 正会員 佐藤文彦
ジオスケープ 正会員 須田清隆
ジオスケープ 正会員 木下明子

1. はじめに

本来、地域はその土地の歴史、気候・風土などと密接に関係した独自の表情を持っていた。しかし、建材の流通が自由になってから、どこでも同じような建材が使われるようになり、地域の表情が均質化してきている。

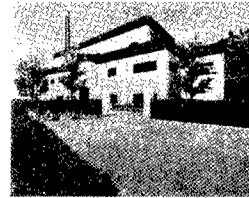
近年、まちづくりの景観への配慮を求める声が高まっている背景には、このような地方性の喪失が影響していると考えられる。地域性に配慮した公共空間の景観設計を行っていく上で、それぞれの地域の持つ独自の歴史や文化、気候などの地域特性を把握する必要がある。

本研究は、地域景観を形成する要素の1つである構造物の色彩に着目し、色彩認知の地域特性を把握するための基礎研究である。

2. 調査目的

図1～2は公共施設の色彩決定を行う際に作成した検討画像の一部である。このようなフォトモンタージュは計画段階において景観設計による効果を確認したり、問題点を抽出することが可能であるため、近年景観設計を行うにあたって効果的な技術として確立していると考えられる。

本調査の目的は、フォトモンタージュ技術を利用して、出身地により色彩に対する認知が異なることを確認することである。今回は調査対象者の出身地を北海道・東北・関東地方を東日本、中部・近畿・中国・四国・九州地方を西日本の2つの地域に大きく分けて調査を行う。



3. 調査内容

今回調査サンプルとして使用したフォトモンタージュ画像は、図-3の画像を基本に作成した表-1に示す9パターンである。色彩パターンの設定にあたっては、まず一般的に多く見られる色彩を屋根及び壁に配色した、それぞれ色相の異なるA～Cの3案を設定し、さらにそれらの各案について彩度を3段階にわけ、合計9パターンを設定した。

調査対象者は男性57人、女性23人の合計80人を対象とした。調査内容は出身地の調査と、9枚の画像から調和性の高いと感じるものを3つ選択してもらうこととした。



表-1 調査サンプルの色彩パターン

	A 案	B 案	C 案
1	屋根：H 0° S 3% B 26% 壁：H 24° S 15% B 71%	屋根：H 0° S 68% B 34% 壁：H 42° S 24% B 69%	屋根：H 5° S 44% B 18% 壁：H 30° S 4% B 82%
2	屋根：H 0° S 1% B 26% 壁：H 24° S 11% B 71%	屋根：H 0° S 48% B 34% 壁：H 42° S 19% B 69%	屋根：H 5° S 25% B 18% 壁：H 30° S 2% B 82%
3	屋根：H 0° S 0% B 26% 壁：H 24° S 7% B 71%	屋根：H 0° S 31% B 34% 壁：H 42° S 8% B 69%	屋根：H 5° S 11% B 18% 壁：H 30° S 0% B 82%

H：色相 S：彩度 B：明度

キーワード：公共施設、色彩、景観、認識

連絡先：港区北青山2-5-8 (株)ジオスケープ

TEL 03 (5410) 2366 FAX 03 (5410) 2367

4. 調査結果

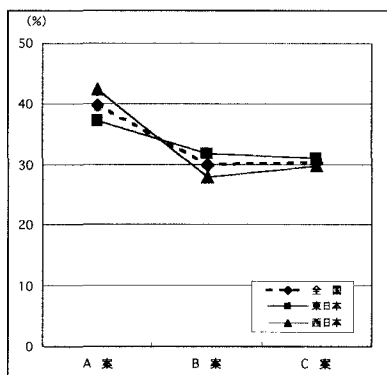
表一2は、今回の調査で使用した9パターンのサンプルモデルごとに、調和性が高いと感じた票数を、東西日本出身者それぞれについて相対化し集計したものである。この表から、西日本出身者がA-2を最も調和性の高い色彩であると評価しているのに対し、東日本出身者はB-3を最も調和性の高い色彩と評価していることが確認できる。

図一3は東西日本出身地の違いによる色相の調和性に対する評価をグラフにしたものである。このグラフから、全国平均から見ても、東西日本出身者による評価から見てもA案の色相を最も調和性の高い色彩と評価していることが確認できる。この傾向は特に西日本出身者に顕著に現れている。

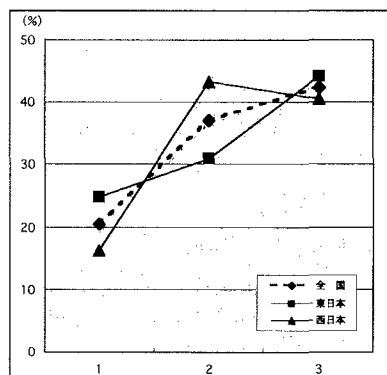
図一4は東西日本出身地の違いによる彩度の調和性に対する評価をグラフにしたものである。全国平均をみると彩度の低いものから順に調和性の高い色彩として評価していることが確認できる。これは東日本出身者にも共通している傾向である。それに対し西日本出身者は、今回設定した3段階の彩度において、中間レベルに当たる彩度が最も調和性の高い彩度であると評価している点が特徴的な点として挙げることができる。

表一2 出身地の違いと色彩の調和性に対する評価（％）

	A-1	A-2	A-3	B-1	B-2	B-3	C-1	C-2	C-3
東日本	12	12	13	4.7	7.8	19	7.8	12	12
西日本	8.1	19	15	2.7	14	12	5.4	11	14



図一4 出身地の違いと色相の調和性に対する評価



図一5 出身地の違いと彩度の調和性に対する評価

5. 考 察

調査の結果から、色相及び彩度に対する認識が出身地の違いにより異なる可能性を確認することができた。これにより、ある地域において調和性が高いと認識された色彩が、別の地域に於いては必ずしも調和するとは限らないことが確認できた。

色彩に対する認識は、社会的背景、個人の生活背景、生まれ育った風土や土地の持つ雰囲気、日照の状態などといった遺伝的背景など様々な要素に基づくものであると考えられる。各地域における色彩認知の地域特性を把握するにあたり、これらの要素を総合的に分析していくことを今後の研究課題と考える。

（参考文献） 「色彩学」 千々岩英彰 著
「新・カラーイメージ事典」 小林重順／(株)日本カラーデザイン研究所 編・著